

ハザードマップに色がない それでも、 水害被害が起きています。

CASE 01 | 紀の川市中鞆渚

CASE 02 | 紀美野町釜滝

ハザードマップで無着色だった地域でも、
実際に人的被害が報告されています。
色がついていない場所でも、
災害リスクがゼロとは限りません。

WAKAYAMA

令和5年6月の大雨・台風2号

浸水想定区画外でも、人的被害は起きています。

CASE 01 紀の川市中鞆渚（真国川沿い）

令和5年6月の大雨では、和歌山県内の真国川沿いで、洪水浸水想定区画外とされていた場所でも人的被害が報告されました。そこは地形的に水が集まりやすい谷底平野でした。



CASE 02 和歌山県紀美野町釜滝（真国川沿い）

真国川沿いでは、洪水浸水想定区域外でありながら、女性が流され行方不明となる被害が発生。紀の川市・紀美野町の事例はいずれも、洪水が起こりうる低地での被害とされています。



出典：牛山素行・本間基寛・向井利明「2023年の風水害による人的被害発生場所の特徴」『自然災害科学』44巻2号（2025）

想定の外まで考える。それこそ、これからの住まいづくり。

土地情報



高性能住宅



水害への備え

NEW

耐水害仕様 誕生

台風やゲリラ豪雨が
増えてきた今だからこそ



災害後も、日常生活に戻りやすい家。

詳細はこちら

